

入札説明書

【一般競争入札（総合評価落札方式）】

業務名称： 全世界 2020 年度 JICA ボランティア事業調査（東ティモール・パプアニューギニア）（評価分析）（一般競争入札（総合評価落札方式））

調達管理番号：20a01127

- 第1章 入札の手続き
 - 第2章 特記仕様書
 - 第3章 技術提案書作成要領
 - 第4章 経費積算に係る留意事項
 - 第5章 契約管理及び契約金額の確定（精算）に係る留意事項
 - 第6章 契約書（案）
- 別添様式集

注) 本案件の技術提案書の提出方法につきましては、「電子データ（PDF）」とさせていただきます。
詳細については「第1 7.入札書・技術提案書の提出」をご確認ください。

2021年2月24日

独立行政法人国際協力機構

調達・派遣業務部

本説明書は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が、民間コンサルタント等に実施を委託しようとする業務について、当該業務の内容及び委託先を選定する方法について説明したものです。

本件業務の発注においては、競争参加者が提出する技術提案書に基づき、その企画、技術の提案、競争参加者の能力等を総合的に評価した技術評価点と、同じく競争参加者が提出する入札書に記載された入札金額に基づいた価格評価点との総合点により落札者を決定することにより、当機構にとって最も有利な契約相手方を選定する入札方式を採用します。競争参加者には、この説明書及び貸与された資料に基づき、本件業務に係る技術提案書及び入札書の提出を求めます。

第1章 入札の手続き

1. 公示

公示日 2021年2月24日

2. 契約担当役

理事 植嶋 卓巳

3. 競争に付する事項

- (1) 業務名称：全世界2020年度JICAボランティア事業調査（東ティモール・パプアニューギニア）（評価分析）（一般競争入札（総合評価落札方式））
- (2) 業務内容：「第2章 特記仕様書」のとおり
- (3) 適用される契約約款：
「調査業務用」契約約款を適用します。これに伴い、消費税課税取引と整理しますので、入札書において、消費税を加算して応札金額を提示してください。
- (4) 契約期間（予定）：2021年5月から2021年7月

4. 窓口

【選定手続き窓口】

〒102-8012

東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル

独立行政法人 国際協力機構 調達・派遣業務部

電子メール宛先：outm1@jica.go.jp

担当者：契約第一課、木戸 正巳

Kido.Masami@jica.go.jp

注）持参及び郵送による窓口での受領は廃止となりました。

【事業実施担当部】

青年海外協力隊事務局海外業務第一課

5. 競争参加資格

(1) 消極的資格制限

以下のいずれかに該当する者は、当機構の契約事務取扱細則（平成15年細則（調）第8号）第4条に基づき、競争参加資格を認めません。また、共同企業体の構成員や入札の代理人となること、契約の下請負人（業務従事者を提供することを含む。以下同じ。）となることも認めません。

1) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者

具体的には、会社更生法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申立てを行い、更生計画又は再生計画が発行していない法人をいいます。

2) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）第2条第1項の各号に掲げる者

具体的には、反社社会勢力、暴力団、暴力団員、暴力団員等、暴力団員準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等を指します。

3) 独立行政法人国際協力機構が行う契約における不正行為等に対する措置規程（平成20年規程（調）第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者

具体的には、以下のとおり取扱います。

- a) 競争開始日（入札書の提出期限日）に措置期間中である場合、競争への参加を認めない。
- b) 競争開始日の翌日以降から、契約相手確定日（入札会での落札宣言日）までに措置が開始される場合、競争から排除する。
- c) 契約相手確定日（入札会での落札宣言日）の翌日以降に措置が開始される場合、競争から排除しない。
- d) 競争開始日以前に措置が終了している場合、競争への参加を認める。

(2) 積極的資格制限

当機構の契約事務取扱細則第5条に基づき、以下の資格要件を追加して定めません。

1) 全省庁統一資格

令和01・02・03年度全省庁統一資格を有すること。

2) 日本登記法人

日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること。

(3) 利益相反の排除

利益相反を排除するため、本件業務のTOR（Terms of Reference）を実質的に作成する業務を先に行った者、各種評価・審査業務を行う場合であって当該業務の対象となる業務を行った者、及びその他先に行われた業務等との関連で利益相反が生じると判断される者については、競争への参加を認めません。また、共同企業体の構成員や入札の代理人となること、契約の下請負人となることも認めません。

特定の排除者はありません。

- (4) 共同企業体の結成の可否
共同企業体の結成は認めません。

- (5) 競争参加資格要件の確認
競争参加資格要件のうち、全省庁統一資格及び法人登記については、提示いただく全省庁統一資格業者コードに基づき確認を行います。その他の競争参加資格要件については、必要に応じ、契約締結までに確認します。

6. 入札説明書に対する質問

- (1) 質問提出期限
- 1) 提出期限：2021年3月5日（金）正午まで
 - 2) 提出先：上記4. 窓口
 - 3) 提出方法：電子メール
- 注1) 原則、電子メールによる送付としてください。
注2) 電子メール件名に「【質問】調達管理番号_案件名」を記載ください。
注3) 公正性・公平性確保の観点から、電話及び口頭でのご質問は、原則としてお断りしています。

- (2) 質問への回答
- 上記(1)の質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。
- 1) 2021年3月11日（木）までに以下の機構ウェブサイト上に掲示します。
(URL: <https://www2.jica.go.jp/ja/announce/index.php?contract=1>)
 - 2) 回答書によって、仕様・数量等が変更されることがありますので、本件競争参加希望者は質問提出の有無にかかわらず回答を必ずご確認下さい。入札金額は回答による変更を反映したものと取り扱います。

- (3) 説明書の変更
- 競争参加予定者からの質問を受けて、又は当機構の判断により、入札説明書の内容を変更する場合があります。変更は、遅くとも入札書提出期限の2営業日前までに当機構ホームページ上に行います。
(URL: <https://www2.jica.go.jp/ja/announce/index.php?contract=1>)
- 変更の内容によっては、当該変更内容を提出される入札書に反映するための期間を確保するため、入札書提出期限を延期する場合があります。

7. 入札書・技術提案書の提出

- (1) 提出期限：2021年3月19日（金） 12時
- (2) 提出方法：
技術提案書・入札書（押印付）とも、電子データ（PDF）での提出をとします。

上記（１）の提出期限日の４営業日前から１営業日前の正午までに、技術提案書提出用フォルダ作成依頼メールを e-koji@jica.go.jp へ送付願います。

（件名：「提出用フォルダ作成依頼_（調達管理番号）_（法人名）」）

なお、具体的な提出方法につきましては、「業務実施契約の公示にかかる説明書等の受領方法及びプロポーザル・見積書の電子提出方法（2020年10月26日版）」をご参照ください。

（URL: <https://www2.jica.go.jp/ja/announce/index.php?contract=1> ）

※依頼が１営業日前の正午までにされない場合は技術提案書の提出ができなくなりますので、ご注意ください。

（３）提出先：当機構調達・派遣業務部より送付された格納先 URL

（４）提出書類：技術提案書／入札書

（５）技術提案書の無効

次の各号のいずれかに該当する技術提案書は無効とします。

- １）提出期限後に技術提案書が提出されたとき
- ２）提出された技術提案書に記名、押印がないとき。ただし、コロナウイルス感染拡大の影響により、在宅勤務等で、社印又は代表者印の押印が困難な場合には、記名、押印の省略を認めます。この場合、電子データでの送付時に責任者から送付いただくか、責任者を CC に入れて送付いただき、メール本文内に責任者の役職とお名前を明記くださるようお願いいたします。
- ３）同一者から２通以上の技術提案書が提出されたとき
- ４）虚偽の内容が記載されているとき
- ５）前各号に掲げるほか、本説明書又は参照すべきガイドライン等に違反したとき

８．技術提案書の審査結果の通知

技術提案書は、当機構において技術審査し、技術提案書を提出した全者に対し、2021年4月8日（木）までに、電子メールに添付した文書をもってその結果を通知します。2021年4月9日（金）午前までに結果が通知されない場合は、上記４．選定手続き窓口にお問い合わせ下さい。

入札会には、技術提案書の審査に合格した者しか参加できません。また、技術提案書が不合格であった競争参加者の入札書（電子データ）は、当機構にて責任をもって削除します。

９．入札執行の日時及び場所等

（１）日時：2021年4月13日（火）10時～

（２）場所：東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル
独立行政法人国際協力機構内 会議室

注）新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面ではない方式で実施します。
詳細につきましては、あらためてご連絡いたします。

（３）競争参加者の出席

競争参加者の出席を求めますが、競争参加者が入札に参加しなかった場合にお

いても、入札書等は有効なものとして取扱います。

(4) 再入札の実施

すべての入札参加者の応札額が機構の定める予定価格を超えた場合は、再入札を実施します。1 回目の札に対するパスワードを送付したメールへの返信で詳細を連絡します。(詳細については、12. 入札会手順等(1)6)を参照)

(5) その他

入札会后、落札した社からは技術提案書と入札書の原本を提出いただきます。

10. 入札書

(1) 入札価格の評価は、「第2章 特記仕様書」に規定する業務実施に対する総価(円)(消費税込)をもって行います。

(2) 入札価格(消費税を除く。)は、千円単位とします。千円未満の端数がある入札価格(消費税を除く。)が提示された場合は、千円未満の端数を切り捨てた金額を入札価格とみなします。

(3) 競争参加者は、一旦提出した入札書を引換、変更又は取消することが出来ません。

(4) 競争参加者は、入札説明書に記載されている全ての事項を了承のうえ入札書を提出したものとみなします。

(5) 入札保証金は免除します。

(6) 入札(書)の無効

次の各号のいずれに該当する入札は無効とします。

- 1) 競争に参加する資格を有しない者のした入札
- 2) 入札書の提出期限後に到着した入札
- 3) 記名押印を欠く入札

ただし、コロナウイルス拡大の影響により、在宅勤務等で社印又は代表者印の押印が困難な場合には、記名、押印の省略を認めます。この場合、電子データでの送付時に代表者から送付いただくか、代表者をCCに入れて送付いただき、メール本文内に代表者の役職とお名前を明記くださるようお願いいたします。

- 4) 金額を訂正した入札で、その訂正について押印のない入札
- 5) 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- 6) 明らかに連合によると認められる入札
- 7) 同一競争参加者による複数の入札
- 8) 条件が付されている入札
- 9) その他入札に関する条件に違反した入札

11. 落札者の決定方法

(1) 評価方式と配点

技術評価と価格評価を加算する総合評価落札方式とします。技術評価点と価格評価点を合算した総合評価点を100点満点とし、

配点を技術評価点80点、価格評価点20点とします。

(2) 技術評価の方法

「第3章 技術提案書作成要領」の別紙「評価表」の項目ごとに、各項目に記載された配点を満点として、以下の基準により評価し、合計点を技術評価点（小数点第1位まで計算）とします。

この技術評価点が基準点（100点満点中60点）を下回る場合には不合格とします。

技術評価の基準

当該項目の評価	評価点
当該項目については極めて優れており、高い付加価値がある業務の履行が期待できるレベルにある。	90%以上
当該項目については優れており、適切な業務の履行が十分期待できるレベルにある。	80～90%
当該項目については一般的な水準に達しており、業務の履行が十分できるレベルにある。	70～80%
当該項目については必ずしも一般的なレベルに達していないが、業務の履行は可能と判断されるレベルにある。	60～70%
当該項目だけで判断した場合、業務の適切な履行が困難であると判断されるが、他項目の提案内容・評価によっては、全体業務は可能と判断されるレベルにある。	40～60%
当該項目の評価は著しく低いものであり、他項目の提案内容・評価が優れたものであったとしても、本項目の評価のみをもって、業務の適切な履行が疑われるレベルにある。	40%以下

(3) 価格評価の方法

価格評価点は、入札金額（応札額）が安価となるほど点が高くなります。ただし、ダンピング防止対策として、予定価格の80%を下回る入札金額については、逆に安価となるほど点が低くなります。具体的には以下の算定式により、計算します。

【入札金額が予定価格の80%を上回る場合】

$$(\text{価格評価点}) = [(\text{予定価格} - \text{入札金額}) / \text{予定価格}] \times 100 + 80$$

【入札金額が予定価格の80%を下回る場合】

$$(\text{価格評価点}) = 120 - [(\text{予定価格} - \text{入札金額}) / \text{予定価格}] \times 100$$

なお、予定価格を上回る入札金額（応札額）については、失格とします。

(4) 総合評価の方法

技術評価点と価格評価点80：20の割合で合算し、総合評価点とします。総合評価点は、技術評価点分及び価格評価点分をそれぞれ小数点第二位まで計算し、合算します。

$$(\text{総合評価点}) = (\text{技術評価点}) \times 0.8 + (\text{価格評価点}) \times 0.2$$

(5) 落札者の決定方法

以下のすべての要件を満たしたものを落札者とします。なお、落札となるべき総合評価点の者が2者以上あるときは、技術評価点が最も高いものを落札者とします。さらにこの場合、技術評価点が最も高いものが2者以上あるときは、くじ

引きにより落札者を決定します。

- 1) 技術評価点が入札説明書において明示する基準点を下回らないこと
- 2) 入札価格が機構により作成された予定価格の制限の範囲内であること
- 3) 当該競争参加者の総合評価点が最も高いこと

12. 入札会手順等

(1) 入札会の手順

1) 技術点の発表

競争参加者各社の技術評価点を発表します。

2) 開札及び入札書の内容確認

既に提出されている入札書電子データのパスワードを e-koji@jica.go.jp へ送付していただき、入札書を開封し、記載内容を確認します。

3) 入札金額の発表

各競争参加者の入札金額を読み上げます。

4) 予定価格の開封及び入札書との照合

入札執行者が、予定価格を開封し最低入札金額と照合します。

5) 落札者の発表

入札事務担当者が、予定価格を超えない競争参加者の価格評価点及び技術評価点を算出し、これを合算して総合評価点を確認し、入札執行者がこれを読み上げた上で、「落札者」の発表を行います。

6) 再入札

全ての入札価格が予定価格を超えた場合（以下「不落」という。）には、再入札を実施します。1 回目の札に対するパスワードを送付したメールへの返信で詳細を連絡します。再入札の連絡を受領後、入札書（PDF）とパスワード（別送）を以下の電子メールアドレス宛に送付をお願い致します。

パスワード送付先メールアドレス：e-koji@jica.go.jp

2回目以降の札の送付に際しても、1 回目と同じ入札書の様式（別添様式集参照）を使用願います。

ただし、コロナウイルス拡大の影響により、在宅勤務等社印又は代表者印の押印が困難な場合には、記名、押印の省略を認めます。この場合、電子データでの送付時に代表者から送付いただくか、代表者を CC に入れて送付いただき、メール本文内に代表者の役職とお名前を明記くださるようお願いいたします。

7) 入札途中での辞退

「不落」の結果に伴い、入札会開催中に再入札を辞退する場合は、次のように入札書金額欄に「入札金額」の代わりに「辞退」と記載し、e-koji@jica.go.jp へ送付してください。

金			辞			退			円
---	--	--	---	--	--	---	--	--	---

(2) 入札者の失格

入札会において、入札執行者による入札の執行を妨害した者、その他入札執行

者の指示に従わなかった者は失格とします。

(3) 入札会の終了

3回の入札でも落札者が決まらない場合、入札会を終了します。落札者が決まらずに入札会が終了した場合、競争参加者を対象に、(不落) 随意契約の交渉をお願いする場合があります。

1 3. 契約書作成及び締結

- (1) 落札者から、入札金額内訳書（「別添様式集」参照）の提出をいただきます。
- (2) 「第6章 契約書（案）」に基づき、速やかに契約書を作成し、締結するものとします。
- (3) 契約書附属書Ⅲ「契約金額内訳書」（「第6章 契約書（案）」参照）については、入札金額内訳書等に基づき、両者協議・確認して設定します。

1 4. 競争・契約情報の公表

本競争入札の結果及び競争に基づき締結される契約については、機構ウェブサイトに契約関連情報（契約の相手方、契約金額等）を公表しています。また、一定の関係を有する法人との契約や関連公益法人等については、以下のとおり追加情報を公表します。詳細はウェブサイト「公共調達適正化に係る契約情報の公表について」を参照願います。

(URL: <https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>)

技術提案書の提出及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

(1) 一定の関係を有する法人との契約に関する追加情報の公表

1) 公表の対象となる契約相手方取引先

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

- ア. 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること、又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等として再就職していること
- イ. 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること

2) 公表する情報

- ア. 対象となる再就職者の氏名、職名及び当機構における最終職名
- イ. 直近3か年の財務諸表における当機構との間の取引高
- ウ. 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合
- エ. 一者応札又は応募である場合はその旨

3) 情報の提供方法

契約締結日から1ヵ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂きます。

(2) 関連公益法人等にかかる情報の公表

契約の相手方が「独立行政法人会計基準」第13章第6節に規定する関連公益法人等に該当する場合には、同基準第13章第7節の規定される情報が、機構の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されます。

1 5. 誓約事項

技術提案書の提出に際し、競争参加者は以下の事項について誓約していただきます。

す。誓約は、技術提案書提出頭紙への記載により行っていただきます。

(1) 反社会的勢力の排除

以下のいずれにも該当せず、将来においても該当することがないこと。

- 1) 競争参加者の役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）に規定するところにより、これらに準ずるもの又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- 2) 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
- 3) 反社会的勢力が競争参加者の経営に実質的に関与している。
- 4) 競争参加者又は競争参加者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- 5) 競争参加者又は競争参加者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- 6) 競争参加者又は競争参加者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- 7) 競争参加者又は競争参加者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- 8) その他、競争参加者が東京都暴力団排除条例（平成23年東京都条例第54号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

(2) 個人情報及び特定個人情報等の保護

法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成26年12月11日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等を適切に管理できる体制を整えていること。

本契約において、「個人番号関係事務」を委託することは想定していませんが、業務に関連して応札者が謝金等を支払う可能性も想定されるため、そのような場合において、法令に基づく適切な管理ができる体制にあるのかを確認させていただくことが趣旨です。

16. その他

(1) 配布・貸与資料

当機構が配布・貸与した資料は、本件業務の技術提案書及び入札書を作成するためのみに使用することとし、複写又は他の目的のために転用等使用しないでください。

(2) 技術提案書の報酬

技術提案書及び入札書の作成、提出に対しては、報酬を支払いません。

(3) 技術提案書の目的外不使用

技術提案書は、本件競争の落札者を決定し、また、契約管理を行う目的以外に

使用しません。ただし、行政機関から依頼があった場合、法令で定められている範囲内において、技術提案書に記載された情報を提供することがあります。

(4) 不採用の技術提案書の扱い

落札者以外の技術提案書電子データは、当機構にて責任をもって削除します。また、不採用となった技術提案書で提案された計画、手法は無断で使用しません。

(5) 虚偽の技術提案書

技術提案書に虚偽の記載をした場合には、技術提案書を無効とするとともに、虚偽の記載をした競争参加者に対して資格停止措置を行うことがあります。

(6) 技術評価にかかる説明

技術提案書の評価内容については、失注者については、入札会の日の翌日から起算して7営業日以内に調達・派遣業務部 (e-propo@jica.go.jp) 宛に申込み頂ければ、日程を調整の上、技術提案書の評価内容について面談で説明します。7営業日を過ぎての申込みはお受けしていません。説明は最大で30分程度を予定しています。

注) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、電話等による説明とする可能性があります。詳細につきましては、申し込み後にあらためてご連絡いたします。

なお、受注者につきましては、監督職員との打合せ時に、必要に応じて技術提案書の評価内容についてもご確認ください。

以上

第2章 特記仕様書

本特記仕様書に記述されている「脚注」については、競争参加者が技術提案書を作成する際の参考情報として注意書きしたものであり、契約に当たって、契約書附属書Ⅱとして添付される特記仕様書からは削除されます。

また、本競争は一般競争入札ですので、原則として特記仕様書の内容は変更できませんが、競争参加者の技術提案書等を踏まえ、誤記の修正や業務内容の具体化を目的とした追記等を行う場合があります。

第1条 総則

この仕様書は、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」という）と受注者名（以下「受注者」という）との業務実施契約により実施する「全世界2020年度 JICA ボランティア事業調査（東ティモール・パプアニューギニア）（評価分析）（一般競争入札（総合評価落札方式）」に係る業務の仕様を示すものである。

第2条 業務の背景

青年海外協力隊事務局では、事業PDCAサイクルを通じたJICAボランティア事業の更なる改善、日本国民および相手国を含む外部ステークホルダーへの説明責任の確保、という2つの目的の下、2018年度にJICAボランティア事業評価ガイドライン（第一版）¹を策定し、2019年度よりその運用を開始した。

JICAボランティア事業の評価は、上記ガイドラインに則り、開発協力におけるプロジェクトやプログラムで使用されるDAC評価5項目ではなく、同事業が独自に設定する3つの事業目的がどの程度達成されているかを評価の視点とする。この評価の視点には、視点1「開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与」、視点2「異文化社会における相互理解の進化と共生」、視点3「ボランティア経験の社会還元」という3つの視点が含まれる。これらの視点に沿って、青年海外協力隊事務局では、国別JICA海外協力隊派遣計画のレビュー、JICA海外協力隊の活動目標達成状況・相互理解状況の集計、帰国後アンケート調査、現地調査、派遣者データベースの分析（要望調査票、選考資料）、JICA海外協力隊による日本に向けた情報発信の実績・効果の調査、事業全体にかかる定性的な調査、という主に7つの評価調査及び分析を実施する。

本業務「2020年度JICAボランティア事業調査（東ティモール・PNG）（評価分析）」は、上記ガイドラインが定める評価調査の一つである「現地調査」として位置づける。本業務では上述した評価の視点1、2に重点を置き、事業目的の達成度合いを定量・定性的に確認する。なお、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により各国に派遣中の隊員が本邦一時帰国しており、本業務で対象とする二か国においても隊員の再派遣が叶っていないこと、また、定期商用便の運航が不安定な状況になっている事を踏まえ、本業務では現地に直接赴いた調査は実施せず、オンラインでの調査をもって現地調査（オンライン）とする。

本業務では、東ティモールおよびパプアニューギニア（PNG）を現地調査の対象国と

¹ 本契約開始時まで同ガイドライン（第二版）の策定を完了する予定。技術提案書作成時は、同ガイドライン（第一版）を参照していただくが、契約開始時に第二版の運用が開始できる状態の場合は、契約開始時から第二版に則り事業評価を実施する予定。

して設定する。東ティモールでは、2010年4月に青年海外協力隊の派遣を開始し、2020年に派遣10周年目を迎え、派遣した隊員数は100名を突破した。隊員の派遣分野は、同国政府が掲げる産業基盤4本柱に基づく4分野「観光」「農業」「医療/社会福祉」「青少年の健全な育成（教育とスポーツ）」に集中しており、常時30～40名の派遣規模を維持してきた。2013年度から地方都市への隊員派遣も進めているが、コロナ禍を受ける前の2020年3月時点では約7割が首都隊員という配置になっている。また、脆弱な医療事情を背景に、これまで20～45歳の隊員のみ受け入れている。一方で、パプアニューギニアでは、1980年7月に青年海外協力隊の派遣を、2001年に旧シニア海外ボランティアの派遣を開始し、2020年には青年海外協力隊派遣40周年目を迎え、派遣した隊員数は700名超となっている。対パプアニューギニアの国別開発協力方針に基づき、「経済成長基盤の強化」「社会サービスの向上」「環境・気候変動・防災」の3つの開発課題に沿って隊員派遣を行っている。東ティモールと同様に、常時30～40名の派遣規模を維持しているが、首都隊員は少なく、地方隊員の割合が全体の9割超となっている。同国の治安状況の懸念から、1990年までに女性隊員を5名派遣したことを最後に、長らく女性隊員の派遣が停止されてきた。2018年に28年ぶりに女性隊員の派遣が再開されたが未だ女性隊員の比率は低く、コロナ禍を受ける前の2020年3月時点では女性隊員ゼロ名となっている。以上の通り、東ティモール及びPNGは、両国ともに大洋州に浮かぶ島国だが、異なる当事業の経緯、特色を持っている。青年海外協力隊事務局では、2019年度にアフリカ2カ国（ザンビア、ウガンダ）で現地調査を実施しており、2017年度には外務省ODA評価（第三者評価）にて中南米2カ国（ニカラグア、ブラジル）で事業評価が実施されたことから、2020年度は両地域以外で、比較的多くの隊員を派遣している東南アジア・大洋州に位置する上記2カ国を対象とした。

第3条 業務の目的

東ティモールおよびパプアニューギニアにおける機構ボランティア事業の実績、成果を評価、確認するとともに、今後に向けて、同事業に対する提言、教訓を導くことを目的とする。

第4条 対象国・地域

東ティモール、パプアニューギニア

第5条 業務の期間

2021年5月中旬～2021年7月上旬

第6条 業務の範囲

本調査は、「第3条. 業務の目的」を達成するため、「第7条. 業務実施上の留意事項」を踏まえつつ、「第8条. 業務の内容」に示す事項の調査を行い、「第9条. 報告書等（成果品）」に示す報告書等を作成するものとする。

第7条 業務実施上の留意事項

（1）調査対象

隊員本人、配属機関、受益者、援助窓口機関等を基本とし、機構在外事務所と協議のうえ決定すること。なお、隊員本人には、本来ならば派遣中隊員を対

象とするところ、新型コロナウイルス感染拡大を受けて現地から隊員が一時退避、本邦帰国したため、現地で約2年間の活動期間を全うした「2019年度に派遣期間を終了した隊員」（主に、2017年度から2019年度に現地で活動した隊員）を対象として設定する。

（2）現地調査方法の提案

新型コロナウイルスの影響で、本調査は調査対象国には入国せず遠隔で実施することを鑑み、調査方法を工夫し、最適な調査工程を提案すること。その際、現地リソースの有効活用を優先的に検討し、現地コーディネーター（現地語通訳等を担当）や連携先学術機関（大学等）との連携にて実施する方法を積極的に提案すること。また、現地調査での評価項目及び評価指標には、JICA ボランティア事業評価ガイドライン（第一版）に記載の通り下記の表（案）に従って設定するため、下記で示した項目及び指標を現地調査で見取ることができるような方法を検討すること。なお、現地コーディネーターや現地調査実施時の機材（現地で使用するインタビュー用PC及びポータブルWi-Fi等）が必要な場合は、当機構青年海外協力隊事務局及び在外事務所と協議の上、検討する。なお、当機構から貸し出す機材（PC及びポータブルWi-Fiを想定）等にかかる経費については見積の対象外とする。

表1 視点1にかかる評価項目と評価指標

評価項目	指標
（1）開発課題への貢献状況	1）開発課題・重点分野への対応状況 2）優先度の高い案件の充足率 3）個々の隊員の活動目標に対する達成状況総括 4）重点課題毎に設定した「期待される成果」の達成状況

表2 視点2にかかる評価項目と評価指標

評価項目	指標
（1）相手国側の日本に関する理解の促進	1）配属機関の日本や日本人に対する理解 2）受益者の日本や日本人に対する理解 3）相手国政府・要人の日本や日本人に対する理解
（2）日本側の相手国に関する理解の促進	1）JICA海外協力隊の、東ティモール/PNGや同国の人たちに対する理解

	<p>2) JICA海外協力隊による日本に向けた情報発信の実績、効果</p> <p>3) 日本国政府・要人のJICA海外協力隊を通じた東ティモール/PNGに対する理解</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------

(3) 調査対象地への渡航

本業務については、現段階では、現地への渡航を想定していない。

(4) 業務履行の確認プロセス

本業務は、JICAボランティア事業の事業評価の一環として、発注者が作成する「2020年度JICAボランティア事業評価報告書」の一部を取りまとめることを目的としており、業務履行に当たっては、十分発注者と協議すること。なお、協議頻度は、週1回を目途とする。また特に以下の段階においては、必ず発注者と打合せを行ったうえで、完了した業務内容とその後の業務方針について確認を得ることとする。

- 1) 調査行程表（詳細）の作成時
- 2) JICAボランティア事業評価ガイドライン（第一版）の概要資料（調査国向け説明資料）／現地調査の概要資料（調査対象者向け説明資料）の作成時
- 3) アンケート調査紙およびインタビュー調査票・記録紙の作成時
- 4) アンケート調査紙回収時、調査対象者へのインタビュー時
- 5) 現地調査報告書（案）作成時

(5) 機構からの便宜供与

発注者の青年海外協力隊事務局による便宜供与事項は以下のとおり。

- 1) 調査行程表（詳細）にかかる機構東ティモール事務所およびPNG事務所との意見交換については、機構青年海外協力隊事務局が主催者としてオンライン会議を開催します。
- 2) 調査対象者へインタビューを行う場合、機構東ティモール事務所およびPNG事務所と連携した上で青年海外協力隊事務局が連絡先を入手して、提供します。
- 3) 現地コーディネーターが必要な場合、機構東ティモール事務所およびパプアニューギニア事務所が、備上における支援（候補者の紹介を想定）を行います。

第8条 業務の内容

上記「第7条 業務実施上の留意事項」を踏まえつつ、以下の通り、国内準備、現地調査（オンライン）、事業の評価という流れで業務を実施する。

(1) 国内準備の実施【2021年5月中旬～5月下旬/業務量目安12人日】

2019年度JICAボランティア事業現地調査時の調査方法を参考に、JICAボランティア事業評価ガイドライン（第一版）が定める視点1、2に沿った現地調査を実施するために必要な準備を行う。

- 1) 既存の文献、報告書等（2019年度JICAボランティア事業現地調査報告書（ザンビア・ウガンダ）、JICA海外協力隊派遣計画（2017年度、2018年度及び2019年度）、隊員報告書、隊員報告書添付の活動結果表（隊員の活動目標達成状況・相互理解状況）等）をレビューし、東ティモール及びPNGにおけるJICAボランティア事業の実績を整理・分析
- 2) 上記の報告書等を確認し、現地調査の実施プロセスを整理・検討
- 3) 上記の報告書等を確認し、調査項目（特に現地で入手、検証すべき情報）やデータ収集方法、調査方法を整理・検討
- 4) 調査行程表（詳細）を作成
- 5) JICAボランティア事業評価ガイドライン（第一版）の概要（調査国向け説明資料、英語）、現地調査の概要（調査対象者向け説明資料）を作成
- 6) アンケート調査紙（調査対象の隊員本人、配属機関、受益者、援助受入窓口機関、関係機関など向け、日本語、英語もしくは現地語）およびインタビュー調査票・記録紙（英語もしくは現地語）を作成
- 7) アンケート調査紙（英語もしくは現地語）を、事前に対象者へ配布
- 8) 対処方針会議等、関連する各種会議を実施
- 9) 現地調査報告書（案）の目次構成を整理

(2) 現地調査（オンライン）の実施【2021年6月上旬～6月下旬/業務量目安20人日】

現地調査（オンライン）を実施する。

- 1) 機構東ティモール事務所及びPNG事務所との打合せを実施
- 2) 現地調査の関係者に対し、JICAボランティア事業評価ガイドライン（第一版）および現地調査の概要資料などを用いて、現地調査の調査方法を説明
- 3) 事前に配布したアンケート調査紙を回収し、同調査紙に基づいて現地調査の対象者にオンラインインタビューを実施し、その結果を評価グリッドとして取りまとめる。なお、オンラインインタビューは、在外拠点ではインタビュー対象者に在外事務所まで来ていただき事務所のPC及びインターネット環境を利用して実施、もしくは、現地コーディネーターがPC及びWi-Fiを持参した上で対象者の活動地へ赴き実施する。なお、インタビュー対象者の活動地でインターネット環境が悪い場合は、オンラインインタビューという形ではなく、現地コーディネーターがオフラインでインタビューを実施することを想定。また、国内で帰国後の隊員向けにインタビューを行う際は、対象者と

オンラインで繋ぎインタビューすることを想定。

- 4) 評価グリッドに基づいて現地調査結果要約表（案）を作成
- 5) 現地調査結果を機構東ティモール事務所及びPNG事務所に報告

（3）事業の評価【2021年6月下旬～7月上旬/業務量目安8人日】

現地調査（オンライン）で収集した情報、データを分析し、JICAボランティア事業評価ガイドライン（第一版）が定める視点1、2から、対象国2カ国におけるJICAボランティア事業の評価を行い、現地調査報告書（案）（和文）を作成する。

第9条 報告書等（成果品）

作成・提出する成果品は以下の表のとおり。提出物及び成果品は納入前に機構青年海外協力隊事務局との協議及び調整を踏まえ、必要に応じ見直した上で、提出期限までに速やかに提出し、機構担当者の検査・承認を得ることとする。最終成果品の提出期限は、2021年7月上旬を予定している。納入場所は、機構青年海外協力隊事務局海外業務第一課とする。各成果品（下記の（1）及び（2））は、電子データにて提出のこと（製本版の作成・提出は不要）。成果品（電子データ）の基本仕様については、「コンサルタント等契約における報告書の印刷・電子媒体に関するガイドライン」²を参照し、詳細は機構の指示に従うこととする。

（1）提出物

	概要・記載項目	作成言語／様式	提出時期
①	業務計画書 Ⅰ. 作業概要 Ⅱ. 作業体制 Ⅲ. 作業スケジュール・進捗管理方法 Ⅳ. 成果物	和文／任意	契約開始日から起算して5営業日以内
②	議事録	和文／任意	打合せ実施から2営業日以内
③	調査行程表（詳細） Ⅰ. 調査日程 Ⅱ. 調査対象者・機関 Ⅲ. 調査手法 Ⅳ. 評価グリッド（案）様式 Ⅴ. 現地調査結果要約表（案）様式	和文／任意	契約開始日から起算して12営業日以内
④	JICA ボランティア事業評価ガイドライン（第一版）の概要資料（調査国向け説明資料）	英文／任意	契約開始日から起算して12営業日以内
⑤	現地調査の概要資料（調査対象者向け説明資料）	英文／任意	契約開始日から起算して12営業日以内

² https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/ku57pq00000kzwjj-att/ind_guide.pdf

			内
⑥	アンケート調査紙およびインタビュー調査票・記録紙	英文／任意	1回目：5月21日 (仮) 2回目：5月28日 (仮)
⑦	現地調査報告書(目次構成) ドラフト	和文／任意	1回目：5月24日 (仮) 2回目：5月28日 (仮)
⑧	現地調査報告書 ドラフト	和文／任意	7月2日(仮)

(2) 成果品

	概要・記載項目	作成言語／様式	提出時期
①	2020年度JICAボランティア事業現地調査報告書(東ティモール・パプアニューギニア)	和文／提出物⑦の目次構成に沿う	7月7日(仮)

(別紙)

現地調査報告書目次案

注) 本目次案は、発注段階での案であるため、最終的な報告書の目次は、現地調査の結果及び発注者との協議に基づき、最終確定するものとする。

目次

評価調査結果要約表

1. 現地調査の概要

- 1.1 現地調査の背景と目的
- 1.2 現地調査の対象・範囲
- 1.3 調査チームおよび調査日程
- 1.4 現地調査の項目
- 1.5 現地調査の方法
- 1.6 現地調査の制約条件等
- 1.7 東ティモール・パプアニューギニアにおける JICA ボランティア事業の変遷・概況
 - 1.7.1 東ティモール
 - 1.7.2 パプアニューギニア

2. 視点1「対象国の経済・社会の発展、復興への寄与」に関する現地調査結果

- 2.1 調査対象国における重点課題と派遣ニーズ
 - 2.1.1 対象国における要請ニーズ
 - 2.1.2 要請ニーズに対する派遣実績
 - 2.1.3 職種と活動内容
 - 2.1.4 隊員の活動目標の達成状況
- 2.2 派遣計画に沿った実績・成果
 - 2.2.1 アプローチの有効性
 - 2.2.2 期待される成果の達成状況
 - 2.2.3 期待される成果の妥当性
 - 2.2.4 現地調査で確認した主な好事例
 - 2.2.5 活動・成果によるプラスのインパクト
 - 2.2.6 JICA ボランティア事業のプロセスについて

3. 視点2「異文化社会における相互理解の深化と共生」に関する現地調査結果

- 3.1 相手国の日本理解促進
- 3.2 相手国の日本・日本人の印象変化
- 3.3 受入れ前後比較で受益者・関係者の日本・日本人の印象変化
- 3.4 異文化理解促進の効果～具体的事例
- 3.5 隊員の相手国理解の促進
- 3.6 隊員による情報発信
- 3.7 プロセス・アプローチに関わること

- 4. 提言・教訓
 - 4.1 提言
 - 4.2 教訓

以上

第3章 技術提案書作成要領

技術提案書を作成するにあたっては、「第2章 特記仕様書」に記載されている内容等を技術提案書に十分に反映させることが必要となりますので、その内容をよく確認して下さい。

1. 技術提案書の構成

技術提案書に記載すべき内容・構成と頁数目安は次表のとおりです。

記載事項	頁数目安
表紙	
1 コンサルタント等の法人としての経験、能力 (1) 類似業務の経験 <u>類似業務：当機構の事業評価に係る各種業務</u> (2) 当該業務実施上のバックアップ体制（本邦／現地）	4頁以下 2頁以下
2 業務の実施方針等 (1) 課題に関する現状認識 (2) 業務実施の基本方針 (3) 作業計画／要員計画 (4) その他	2頁以下 3頁以下 1頁以下 1頁以下
3 業務従事予定者の経験、能力等 (1) 評価対象業務従事者の経歴	5頁以下

注) IS9001等の品質保証システムや語学能力等の認定書は上記頁数の目安には含まれません。

2. 技術提案書作成に係る要件・留意事項

以下、本業務に係る技術提案書作成に際して、留意頂くべき要件・留意事項について、以下のとおり整理します。

(1) 業務の工程

「第2章 特記仕様書」を参照し、求められている業務の工程を確認してください。

また、本業務については、現段階では現地への渡航を想定していませんが、業務履行期間中に現地への渡航が可能となった場合には、業務の一部を現地渡航して実施することについて、受注者に協議に応じて頂きます。その際の旅費等については、「コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン」(<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)に基づき、発注者が負担します。

(2) 業務量の目途

機構が想定する業務量の目途は次のとおりです。以下の数字は、機構が想定する目途ですので、競争参加者は、「第2章 特記仕様書」に示した業務に応じた業務量を算定してください。

(全体) 約2.0人月

※現地業務期間や渡航回数については、提案する作業計画に基づき、競争参加者が自由に提案することができますが、それらに係る経費を含む入札価格が予定価格を超える場合は落札者とならないので、ご注意ください。

(3) 業務従事者の構成

業務従事者の構成は、競争参加者が自由に提案してください。ただし、評価対象者は1名のみとしますので、複数名で分担する提案を行う場合には、評価対象者1名についてのみ、評価対象業務従事予定者経歴書を提出してください。

① 業務主任者／評価分析（3号）

(4) 業務従事者の評価に際しての類似業務／対象国／語学力

評価対象者を評価するに当たっての類似業務経験分野、業務経験地域、及び語学の種類は以下のとおりです。

【業務従事者：担当分野 業務主任者（評価分析）】

a) 類似業務経験の分野：当機構の事業評価に係る各種業務

b) 対象国又は同類似地域：東ティモール国／パプアニューギニア国又はその他全途上国

c) 語学能力：英語

※総合評価落札方式では業務管理グループ(副業務主任)は想定していません。

(5) 評価対象者の制限

評価対象者は、自社の経営者又は自社と雇用関係にある技術者（「専任の技術者」と称します。）としてください。

(6) 外国籍人材の活用

外国籍人材の活用を認めます。

なお、評価対象者に外国籍人材を活用する場合で、評価対象者が日本語を母国語としない場合は、日本語のコミュニケーション能力について、記述してください。日本語の資格を取得している場合、証書の写しを添付してください。

(7) 配布資料／閲覧資料等

1) 閲覧資料

- JICA ボランティア事業評価ガイドライン（第一版）
- 2019 年度 JICA ボランティア事業現地調査報告書（ザンビア・ウガンダ）
- 2019 年度 JICA ボランティア事業評価報告書
- JICA 海外協力隊派遣計画（2017 年度、2018 年度及び 2019 年度、東ティモール及び PNG 版）
- JICA ボランティア事業評価ガイドラインの概要資料（調査国向け説明資料）

• 閲覧日

- 2月26日（金）10時～18時
- 3月3日（水）10時～18時
- 3月10日（水）10時～18時
- 3月17日（水）10時～18時

• 閲覧場所

JICA 竹橋ビル（100-0004 東京都千代田区大手町 1-4-1 竹橋合同ビル）

• 閲覧申請方法

2021 年 3 月 17 日（水）正午までに下記担当者あてに電子メールで①閲覧希望日と②希望の時間帯を連絡をしてください。

• 連絡先

所属部署：青年海外協力隊事務局 海外業務第一課
氏名：酒井春佳
メールアドレス：Sakai.Haruka@jica.go.jp

2) 公開資料

- 平成 29 年度外務省 ODA 評価「JICA ボランティア事業の評価」（第三者評価）報告書
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000359849.pdf>
- 隊員報告書（JICA 図書館にて閲覧可能）
- 隊員報告書添付の活動結果表（隊員の活動目標達成状況・相互理解状況）
（JICA 図書館にて閲覧可能）

3. 技術提案書作成上の留意点

具体的な記載事項や留意点について以下に説明します。

(1) コンサルタント等の法人としての経験、能力

業務を実施するにあたっては、後述するように、当該業務に直接的に従事する各団員の経験や能力等はもとより、コンサルタント等の法人としての業務経験、法人としての業務実施体制等も業務を円滑に実施するための重要な要件ですので、本項目ではこれらを総合的に記述して下さい。

記述に当たっては、「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン(2019年4月)」I.の「1. プロポーザルに記載されるべき事項」の「(1) コンサルタント等の法人としての経験・能力」を参照してください。

ただし、類似業務実績は3件までとし、様式4-1(その2)を使用してください。

(2) 業務の実施方針等

「第2章 特記仕様書」について競争参加者が理解した内容や課題認識、業務の基本方針などについて記述して下さい。他の文献等の内容を引用した場合には、その出典・引用元を必ず明らかにして下さい。

1) 本業務実施にかかる内容理解および課題

本業務にあたり、現時点で競争参加者が認識している以下の項目について整理の上、記述して下さい。

➤ **東ティモール国およびパプアニューギニア国での JICA ボランティア事業評価(現地調査)の内容理解と、遠隔での実施にあたる課題認識**

2) 業務実施の基本方針

「第2章 特記仕様書」で示した内容及び上記1)の課題に関する現状認識の下、競争参加者がどのような方針で業務に臨むのか記述して下さい。

運営面では当該業務実施のために特に配慮すべき実施体制等を、また、技術面では当該業務の目的等を理解した上でどのような事柄に留意し業務を実施するかを検討した上で記述して下さい。なお、「第2章 特記仕様書」に記載されている調査項目を基にしつつも、調査に期待される成果に鑑み、追加すべき調査事項等あれば、提案して下さい。

特に、本業務では現地への渡航を想定していないため、遠隔での情報収集等の方針等(オンラインによる面談、ローカルリソースの活用等)について、可能な限り具体的に記述して下さい。

3) 作業計画/要員計画

上記「2) 業務実施の基本方針」での提案内容に基づき、作業計画を記述して下さい。

4) その他

相手国政府又は機構(機構の現地事務所を含む。)からの便宜供与等に関し、業務を遂行するに当たり必要な事項があれば記載して下さい。

(3) 評価対象者の経験・能力等

本件業務に業務主任者として従事する評価対象者の経験・能力等について記述して下さい。

記述に際しては、「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン(2019年4月)」I.の「1. プロポーザルに記載されるべき事項」の「(3) 業務従事予定者の経験・能力」を参照してください。また、様式についても、同ガイドラインの当該様式集を使用してください。

(4) 技術提案書の形式等

技術提案書を提出する場合の体裁等は、以下のとおりとして下さい。

➤ 形式

技術提案書は、A4版(縦)、原則として1行の文字数を45字及び1ペー

ジの行数を35行程度として下さい。関連する写真等を掲載する場合には、目次の前として下さい。

➤ 構成・分量

「1. 技術提案書の構成」に記載した頁数を目処として作成して下さい。

別紙：評価表

評価表

【オプション1：暫定調達制度でトータル1名しかいない構成の場合】

評価項目	評価基準(視点)	配点
1. コンサルタント等の法人としての経験、能力		20
(1) 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似業務については実施件数のみならず、業務の分野(内容)と形態、発注業務との関連性並びに実施国の類似性に鑑み総合的に評価する。 ● 類似業務はJICA発注業務に限らず、国際機関等での類似案件業務経験も評価する。国際機関や途上国政府機関からの直接受注については、業務実績の多様性等の観点から、高く評価する。 ● 国内における類似業務も、業務内容の類似度合いに応じ海外業務に準じて評価する。 ● 概ね過去10年までの類似案件を対象とし、より最近のものに対し高い評価を与える。 	12
(2) 当該業務実施上のバックアップ体制(本邦/現地)	<ul style="list-style-type: none"> ● 現地支援体制や社外有識者の支援など、業務の質・効率向上のための体制が整備されているか。支援内容が具体的か。 ● ISO9001等の品質保証システムの認証を受けているか。 ● 安全管理、報告書作成体制(校正や翻訳の質を確保するための体制)が整備されているか。 ● 次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定・プラチナくるみん認定」、若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」、女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」を受けている場合は評価する。 	8
2. 業務の実施方針等		40
(1) 課題に対する現状認識	<ul style="list-style-type: none"> ● 提示した課題について、広い視野から全体像が把握されているか。 ● 課題について総花的な記述ではなく、課題の核心を捉えた記述となっているか。 ● 抽象的な記述ではなく、具体的な事例や統計データ等に基づいた記述となっているか。 ● 記述内容について、適切に出典を伴った根拠が示されているか。 	16
(2) 業務実施基本方針の的確性	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の目的及び課題認識等に基づき業務実施のクリティカルポイントを押さえ、これに対応する業務方針が示されているか。 ● 途上国での業務という制約条件を適切に認識した業務実施の実現可能性や作業の具体性が確保されているか。 	10
	<ul style="list-style-type: none"> ● 遠隔での作業が必要となる業務について、具体的で、実現性が高く、効率・効果的な実施方針が提案されているか。 	10

(3) 作業計画の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ● 各作業を適正に実施できる業務フローとなっているか。 	4
3. 業務主任者の経験・能力		40
イ 類似業務の経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似業務の多寡、類似程度や関連業務実施の経験等に鑑み総合的に評価する。 ● 類似業務は機構の発注業務に限らず、国際機関等での類似案件業務経験も評価する。国際機関や途上国政府機関からの直接受注については、業務実績の多様性等の観点から、高く評価する。 ● 国内における類似業務も、業務内容の類似度合いに応じ海外業務に準じて評価する。 ● 最近10年程度の経験にプライオリティをおき評価する。 	20
ロ 対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域での業務経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価対象となる業務は海外業務全体とするが、視察、学会出席等は含めない。 ● 発注業務の質、効果効率の向上につながる経験を重視する。 ● 業務従事の長短を考慮する。 	8
ハ 語学力	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定の外国語レベルについて、検定等の成績を評価基準に照らして評価する。 	7
ニ 業務主任者等としての経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 最近10年に実施した業務主任経験（副業務主任経験を含む。）にプライオリティをおき評価する。 ● 海外業務の経験を国内業務に比し高く評価する。 	2
ホ その他学位、資格等	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去に発注業務と関連性の強い学歴（専門性）、資格などがあるか。 	3

第4章 経費積算に係る留意事項

本業務に係る経費を積算するに際し、留意すべき点について記載します。競争参加者は、以下に記載される留意点を十分理解した上で、積算を行って下さい。

なお、当機構の「コンサルタント等契約」（本業務に係る契約も「コンサルタント等契約」です。）に係る業務価格の積算の考え方については、「コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン（QCBS方式対応版）」（2020年4月）（下記URL参照）にて、その基本的な考え方が理解いただけるものと考えます。ただし、本件は入札による選定であり、同ガイドラインの適用対象外ですので、あくまで「考え方」の参考としてご参照下さい。

https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation_qcbs.html

1. 本案件に係る業務量の目途

「第3章 技術提案書作成要領」の2.（2）に記載している機構が想定する業務量の目途を参照して下さい。

2. 入札金額内訳

落札者に対しては、当該落札金額の内訳を示す入札金額内訳書（「別添様式集」参照）の提出を求めます。入札金額内訳書の作成については次のとおりとします。

（1）費目構成

本業務で提出する入札金額内訳書においては、費目の構成を次のとおりとします（別添様式1-2参照）。

本業務については、現地への渡航を現時点では想定していませんので、航空賃や現地関連費のうち、日当・宿泊料などの旅費についての計上はないと考えています。

		内 容
I. 報酬		業務を実施・完成させることに対する報酬
II. 直接経費	（1）旅費（航空賃）	本邦又は第三国から対象国への航空賃
	（2）現地関連費	① 旅費（日当・宿泊費） 業務従事者にかかる日当・宿泊料などの旅費 ② 一般業務費（現地支出分） 現地通訳費、車両関連費等の現地で支出する直接経費
	（3）国内関連費	一般業務費のうち、国内で支出する直接経費
	（4）機材費	機材購入費・輸送費等
	（5）再委託費	業務の一部を再委託（下請負）するための経費（機構が認める場合に限る。）
III. 消費税		消費税及び地方消費税

(2) 報酬額の積算

報酬の額は、業務従事者ごとの報酬単価（月額）に業務量（業務人月）を乗じて積算して下さい。

業務人月は、現地業務は拘束日 30 日、国内業務は実働日 20 日で 1 人月として積算して下さい。

ただし、本業務については、現地への渡航を現時点では想定していません。

(3) 直接経費の積算

直接経費は、報酬以外に実支出に基づいた支払いとすべき費用を計上して下さい。ただし、実支出の確認は、定額で計上を求める経費を除き、合意された単価に実績（例：渡航回数、現地での業務従事人月等）を乗じて、支払額を確定することを原則とします。

3. 定額で計上する経費

以下の直接経費については、以下に示す定額を入札金額に含めて計上することとし、契約金額に含めて契約することとします。契約業務完了に際しては、本定額経費について、証拠書類に基づいて実費精算させていただきます。

- ・ 現地関連費（現地コーディネーター1名の備上）（東ティモール／契約期間における総額：828,000円（消費税抜き）
- ・ 現地関連費（現地コーディネーター1名の備上）（パプアニューギニア／契約期間における総額）：206,000円（消費税抜き）

第5章 契約管理及び契約金額の確定（精算）に係る留意事項

経費確定（精算）報告書の作成にあたっては、以下を参照して下さい。
http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/20151013_02.html

1. 数量等の確認を必要とする費用

入札内訳書に記載される内訳別に、数量確認を必要とする費用を以下に示します。
 数量等確認の有無については、「有」又は「無」の記載のとおりです。

費用項目		数量等実績確認の有無
I. 報酬		無：
II. 直接経費	(1) 旅費（航空賃）	有：渡航回数を確認
	(2) 現地関連費	有：現地業務人月（人日）を確認 注）ただし、現地業務人月に関係しない経費については、数量等の実績確認は行わない。
	(3) 国内関連費	無
	(4) 機材購入費	有：購入された機材の内容と契約終了時の取扱いを確認
	(5) 再委託費	無：

ただし、本業務については、現地への渡航を現時点では想定していませんので、航空賃や現地関連費のうち、日当・宿泊料などの旅費についての計上はないと考えています。

すなわち、現地業務人月に関係する（比例する）現地関連費や機材購入費の計上がなければ（これらの計上がない可能性が高いと考えています。）、本契約においては、業務完了及びのその確認・検査に基づき、契約金額全額が、数量等の実績確認や実支出の確認（証憑書類等の確認）なしに、支払を行うこととなります。「業務従事者の従事計画・実績表」の提出も不要となります。

2 留意事項

受注者の責によらない止むを得ない理由で、業務量を増加させる場合には、機構と協議の上、両者が妥当と判断する場合には、契約変更を行うことができます。受注者は、かかる事態が起きた時点で速やかに担当事業部と相談して下さい。

【契約管理について】

本契約についても「業務実施契約における契約管理ガイドライン（2018年5月）」

が適用されます。

しかしながら、上述のとおり、契約金額に「精算を要しない金額」が含まれ、これら金額については、同ガイドラインの適用が限定されることとなります。

適用の限定について、同ガイドライン「4. 契約履行プロセスにおける具体的な契約管理」にそって、具体的に記載すると以下のとおりです。

- (1) 契約締結時における確認事項
適用されます。ただし、「4) 要員に係る合意事項」については、入札によって既に契約金額に含まれるべき「報酬」が確定しているため、不要です。
- (2) 業務計画書等の提出
適用されます。
- (3) 費目間流用
定額計上した「直接経費」のみを対象に適用されます。
- (4) その他契約金額内訳に係る事項
定額計上した「直接経費」のみを対象に適用されます。ただし、「5) 旅費の分担について」は、定額計上か否かにかかわらず、適用されます。
- (5) 業務従事者の確定・交代
業務従事者の確定・交代については、「業務従事者の専門性の確認」の視点から確認させていただきます。
- (6) 現地再委託契約
「再委託費」が定額計上した「直接経費」である場合に限り、適用されます。
- (7) 機材調達・管理
「機材費」が定額計上した「直接経費」である場合、適用されます。ただし、「4) 調達した機材の確認」については、定額計上か否かにかかわらず、適用されます。
- (8) 本邦研修受入れ
適用されます。
本邦研修受入れに係る直接経費は、原則、定額計上するよう指示する「直接経費」として取扱われることを想定しています。
- (9) 契約の変更
適用されます。
- (10) 不可抗力
適用されます。
- (11) 業務の完了
適用されます。ただし、「2) 継続契約がある場合の一般業務費の支出」については、当該一般業務費が定額計上した「直接経費」である場合に限りです。

以 上

第6章 契約書（案）

業務実施契約書（案）

- 1 業務名称： 全世界 2020 年度 JICA ボランティア事業調査（東ティモール・パプアニューギニア）（評価分析）（一般競争入札（総合評価落札方式））
- 2 業務地： 全世界
- 3 履行期間： （西暦で記入）年 月 日から
（西暦で記入）年 月 日まで
- 4 契約金額： 円
（内 消費税及び地方消費税の合計額 円）

頭書業務の実施について、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」という。）と受注者名を記載（以下「受注者」という。）とは、おのこの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって契約（以下「本契約」という。）を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

（契約書の構成）

第1条 本契約は、本契約書本体の他、本契約の一部としての効力を持つ次に掲げる各文書により構成される。

- （1）業務実施契約約款（調査業務。以下「約款」という。）
- （2）附属書Ⅰ「共通仕様書」
- （3）附属書Ⅱ「特記仕様書」
- （4）附属書Ⅲ「契約金額内訳書」

（監督職員等）

第2条 約款第6条に定める監督職員及び分任監督職員は以下の職位にあるものとする。

- （1）監督職員： 青年海外協力隊事務局海外業務第1課の課長
- （2）分任監督職員： なし

（「契約金額の精算」条項の変更）

第3条 本契約においては、約款第15条第1項に基づき受注者が請求できる金額は次の各号のとおり確定する。

【オプション1：暫定調達制度（現地渡航なし）の場合】

- （1）直接経費のうち、国内関連費、機材費及び再委託費
国内関連費、機材購入費及び再委託費については、契約金額内訳の額をもって金額を確定する。
- （2）報酬
契約金額内訳の額をもって金額を確定する。
- （3）直接経費の例外

第1号及び第2号の規定にかかわらず、直接経費のうち、定額計上する以下の経費については、証拠書類に基づき精算を行い、金額を確定する。

- ・ 現地関連費（現地コーディネーターの備上）（東ティモール）
- ・ 現地関連費（現地コーディネーターの備上）（パプアニューギニア）

2 前項の趣旨を踏まえ、約款第14条（契約金額の精算）及び約款第15条（支払）の規定を次の各号のとおり変更する。

- (1) 約款第14条第2項から第6項を削除する。
- (2) 約款第14条第2項に「契約金額をもって「確定金額」とする。ただし、発注者が契約金額内訳書に記載されている費目について、業務の実績や実支出を確認した上で、発注者が支払うべき「確定金額」を定める旨、受注者に指示したときは、受注者は契約履行期限内に経費報告書を発注者に提出し、発注者は当該経費報告書をもって、確定金額を算定し、受注者に通知する。」を挿入する。
- (3) 約款第15条第1項中「前条第5項の規定による確定金額」を「前条第2項の規定による確定金額」に変更する。

（共通仕様書の変更）

第4条 本契約においては、附属書I「共通仕様書」のうち、次に掲げる条項については、共通仕様書の規定によらず、次のとおり変更するものとする。

- (1) 第9条 業務関連ガイドライン
「(7)コンサルタント等契約における経理処理ガイドライン(2020年4月)」を削除する。
- (2) 第26条 契約金額精算報告書
本条を削除する。
- (3) 第27条 航空賃の取扱い
本条を削除する。

※（契約履行期間が12ヵ月を越え、）前金払の上限額に制限を設ける場合。

（前金払の上限額）

第〇条 本契約においては、業務実施契約約款第16条に規定する前金払については、同条第1項の規定にかかわらず、以下の各号のとおり分割して請求を認めるものとする。

- (1) 第1回（契約締結後）：契約金額の●●%を上限とする。
- (2) 第2回（契約締結後13ヵ月以降）：契約金額の〇〇%を上限とする。

※ 部分払を行う場合。

（部分払）

第〇条 業務実施契約約款第17条第1項に定める部分払の対象とする一部業務については、以下の各号のとおりとする。

<例>

- (1) 第1回部分払：第〇次中間報告書の作成

- (中間成果品：第〇次中間報告書)
(2) 第2回部分払：ドラフトファイナルレポートの作成
(中間成果品：ドラフトファイナルレポート)

本契約の証として、本書2通を作成し、発注者、受注者記名押印のうえ、各自1通を保持する。

2000年〇〇月〇〇日

発注者

東京都千代田区二番町5番地25

独立行政法人国際協力機構

契約担当役

理事 植嶋 卓巳

受注者

業務実施契約約款

※ 機構 Website「調達情報」> 調達ガイドライン・様式 > 様式 業務実施契約
(http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/index_since_201404.html)
にある「契約約款(調査業務)」に示すとおりとします。

附属書 I 「共通仕様書」

※ 機構 Website「調達情報」> 調達ガイドライン・様式 > 様式 業務実施契約
(http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/index_since_201404.html)
にある「附属書 I (共通仕様書)」に示すとおりとします。

[附属書Ⅲ]

契約金額内訳書

I. 報酬	●●, ●●●, 000円 (内訳別表)
II. 直接経費	●, ●●●, 000円
(1) 旅費(航空賃)	●●●, 000円
1) Cクラス:	●●●, 000円×○往復=●●●, 000円
2) Yクラス:	●●●, 000円×○往復=●●●, 000円
(2) 現地関連費	●●●, 000円
内訳:	●●●, 000円×○. ○人月
(3) 国内関連費	●●●, 000円 (一式)
(4) 機材費	●●●, 000円 (例: 定額計上)
(5) 再委託費	●●●, 000円 (一式)
III. 小計	●●, ●●●, 000円
IV. 消費税等	●, ●●●, ●00円 (10%)
V. 合計	●●, ●●●, ●00円

- 旅費(航空賃)及び現地関連費は、「業務従事者の従事計画・実績表」をもとに数量を確認の上、精算金額を確定する。
- 定額計上した直接経費は、証拠書類に基づき精算する。

別表：報酬内訳

担当業務	格付 (号)	月額 (円)	業務人月	金額 (円)
合 計				

別添様式集

第 1 入札に関する様式

- 別添様式 1 - 1 入札書
- 別添様式 1 - 2 入札金額内訳書

第 2 技術提案書作成要領に関する様式

- 別添様式 2 - 1 技術提案書頭紙
- 別添様式 2 - 2 技術提案書表紙

(別添様式1-1)

入札書

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構
契約担当役 理事 殿

住所

商号/名称

代表者役職・氏名

印

印

案件名

(一般競争入札(総合評価落札方式))

調達管理番号:

標記の件について、入札説明書に記載されている全ての事項を了承のうえ、一括下記のとおり入札いたします。

金								0	0	円
---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---

(消費税及び地方消費税●, ●●●, ●00円を含む。)

- * 消費税及び地方消費税を含んだ金額とすること。
- * 上記金額は、定額計上分の●●について、●●, ●●●千円を含むものとします。

以上

入札書への添付は不要です。落札後、落札者のみから提出を求めるものです。契約金額の内訳を協議するための資料ですので、押印は不要です。

(別添様式 1 - 2)

入札金額内訳書

2000年 月 日

商号／名称

件名：案件名

(一般競争入札(総合評価落札方式))

標記一般競争入札において応札した入札金額の内訳を以下のとおり提示します。

I 報酬	円
II 直接経費	円
(1) 旅費(航空賃)	円
(2) 現地関連費／旅費(日当・宿泊費)	円
(3) 現地関連費／一般業務費(現地支出分)	円
(4) 国内関連費／一般業務費(国内支出分：報告書印刷費等)	円
(5) 機材購入費	円
(6) 再委託費	円
合 計	円
消費税及び地方消費税の合計金額	円
総 計 (入札金額)	円

I 報酬 円

担当業務	格付 (号)	月額 (円)	作業人月	金額 (円)
小 計				

II 直接経費 円

(1) 旅費 (航空賃) 円

担当業務	航空券 クラス (C/Y)	回数	航空賃単価 (円)	金額 (円)
小 計				

(別添様式 1 - 2)

(2) 旅費 (日当・宿泊費) 円

担当業務	格付 (号)	滞在費				金額 (円)
		日当 (円)		宿泊費 (円)		
		×	=	×	=	
小 計						

(3) 一般業務費 (現地支出分) 円

費 目	内 訳	単価 (円)	数量	金額 (円)	備 考
合 計					

(別添様式 1 - 2)

(4) 一般業務費 (国内支出分 : 報告書印刷費等)

円

費目	内訳	単価 (円)	数量	金額 (円)	備考
合計					

(5) 機材購入費

円

費目	内訳	単価 (円)	数量	金額 (円)	備考
合計					

(6) 再委託費

円

費目	内訳	単価 (円)	数量	金額 (円)	備考
合計					

(別添様式 2 - 1)

2000年 月 日

独立行政法人国際協力機構
契約担当役 理事 殿

《全省庁統一資格業者コード》
《コンサルタント等の名称》
《代表者名》 印

〇〇〇国《案件名》(調達管理番号: XXX)
に係る技術提案書及び入札書の提出について

標記業務に係る技術提案書及び入札書を下記のとおり提出いたします。

提出にあたり、(共同企業体を代表して、)以下の項目について誓約いたします。

- (1) 本案件に関連し、独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程に基づく措置の対象となり得る行為を行わない。
- (2) 現在及び将来にわたって、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成24年規程(総)第25号)に規定する「反社会的勢力」に該当せず、また関与・利用等を行わない。
- (3) 「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づき、個人情報及び特定個人情報等を適切に管理できる体制を整えている。

記

技術提案書

入札書

以上

独立行政法人国際協力機構
〇〇〇国 《案件名》
(調達管理番号 : XXX)
技術提案書

年 月

<全省庁統一資格業者コード>
コンサルタント等の名称

担当者名 :
電話番号 :
FAX 番号 :
e-mail アドレス :
緊急連絡先 :